

## 第2章 特別支援学校・特別支援学級における教育の充実

「特別支援教育授業改善推進事業」研究指定校の研究から

# 1 重度・重複障害のある児童生徒に対する

## 自立活動の指導及び教育課程の編成

広島県立広島特別支援学校

### 研究テーマについて

肢体不自由特別支援学校においては、児童生徒の障害の状態の重度・重複化が進んでおり、自立活動を主とした教育課程を編成し、実施しています。

授業においては、呼吸や食事、生活リズム等、健康の保持にかかわる内容、いろいろな姿勢の保持、体幹の安定等、前庭覚、体性感覚に関する内容を指導することによって、呼吸状態の改善、視線の安定、上肢の機能の向上を目指しています。

このような力を育てていくことがコミュニケーションの力を高めていくものと考えられます。

本研究では、これらの教育内容をより充実させて指導するために、一人一人の課題を重視した自立活動の指導及び教育課程の編成の在り方について検討を行いました。

### 「自立活動」とは

障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的として特別支援学校の学習指導要領に設定されている領域です。



図1 スクーターボードによる姿勢保持や体性感覚の学習

### 広島特別支援学校の概要

本校は、広島市北部の広島市安佐北区にある、肢体不自由者を教育の対象とする特別支援学校です。広島県西部を就学区域とし、遠方で学校へ通うことが困難な児童生徒のために寄宿舎を設置しています。小学部26名、中学部14名、高等部59名、計99名（平成20年5月1日現在）の児童生徒が在籍し、教育課程は、小学部から高等部にわたり、四つの類型に分かれています。小・中学部のほとんどが自立活動の内容を中心とした教育課程である類型を履修しており、重複障害のある児童生徒の在籍率は約6割です。

類型	類型	類型	類型
小学校、中学校、高等学校の教育内容に準ずる教育課程	知的障害特別支援学校の教育内容を取り入れた教育課程	自立活動を主とした教育課程	自立活動を主とした教育課程（訪問教育）

## 研究の概要

### 1 特色ある教育課程の編成

自立活動を主とした教育課程において、姿勢や呼吸、人のかかわりなど、自立活動の指導内容を学習の中心に据えながら、教科等の学習内容を取り入れて指導を行えるよう、「自立活動を中心とした領域・教科を合わせた指導」について検討を行う。

### 2 授業評価に基づく授業改善

学習指導案の読み合わせや、指導・助言に基づく授業の改善、毎時の指導略案の作成に取り組み、授業評価に基づく授業の改善を通して、日々の授業を充実させ、それらを実態把握や年間指導計画に生かす検討を行う。

### 3 教材・教具の工夫

テレビ電話の活用など、指導・助言に基づく教材・教具の工夫を通して、実態把握の視点や教材・教具の使用の際の支援方法などについて検討を行う。

### 4 研修の充実

教育課程の編成や自立活動における指導の実際、また姿勢や運動、コミュニケーション支援などについて、専門家の講話や演習、教職員の実践を交流することを通して、よりよい教育課程の編成や日々の実践の充実に生かす。

### 5 成果の普及・発表

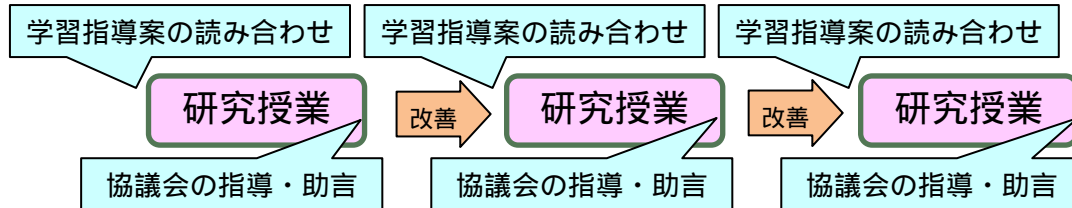
研究紀要や「自立活動の手引き」の作成・配布、様々な場での実践発表、また支援機器の展示や研修会の開催に取り組み、特別支援教育のセンター的機能の発揮に努める。

## 特色ある教育課程の編成

自立活動を主とした教育課程を編成する 類型、 類型では、「自立活動の時間における指導」に加えて、本校独自に、「自立活動を中心とした領域・教科を合わせた指導」として「生活活動」と「表現活動」を設定しました。これは、自立活動の内容を学習の中心に据え、かつ、生活経験や生活年齢を考慮できるように、自立活動の内容に知的障害特別支援学校の教科の内容及び道徳、特別活動などを合わせた指導形態です。

・ 類型	自立活動	自立活動の内容を、自立活動の時間及び学校全体の教育活動を通じて指導する
	生活活動	児童生徒の日常生活や自然にかかわりの深いものから題材設定をし、自立活動の内容を指導する
	表現活動	国語や音楽、美術等コミュニケーションや表出活動に関するものから題材設定をし、自立活動の内容を指導する
	特別活動	学級活動（中学部）、ホームルーム活動（高等部）など

## 授業評価に基づく授業改善



研究授業においては、事前に学校全体や学部全体で授業前の学習指導案の読み合わせを行い、事後にはワークショップ形式での授業検証及び教育課程検討を行いました。

さらに、研究授業の対象を同じ学級の同じ領域・教科の授業とし、外部指導助言者から指導・助言を継続して受けることで明らかになった改善点を、確実に次の授業に生かすという取組みを行いました。

例えば、ある児童の場合、「上体を前傾させた方が手の活動がしやすくなった」といった児童生徒の姿勢の改善、教材・教具の工夫、教室環境の整備、学習指導案の整理など授業改善のポイントを明確にし、改善を進めることができました。

研究協議会での主な指導・助言とその改善について（中学部第1学年 表現活動）		
	指導・助言	改善点
第1回研究協議会	学習指導案について 生徒観 自立活動の5区分に基づいて整理すると分かりやすくなる。 指導観 集団指導について記述してあるが、生徒観に基づいて何をどのようにねらい、何に配慮するのかを記述する。生徒の将来像、長期・短期目標と本単元との目標の関係がない。本時の表現活動が、将来像にどのように貢献するのかを記述する。 学習過程 教師の指示、一人一人の支援を自立活動の5区分に合わせて、もっと具体的に記述する。	自立活動の5区分22項目によって、再度整理をした。 項立てをした。「集団指導におけるねらい」、「将来像、個別の指導計画の目標との関連」、「自立活動と音楽のねらい」についてまとめるようにした。 ねらいと関わる支援を具体的に記入するようにした。
	環境設定について 生徒の座席配置について 座席配置を生徒の実態に合わせる。 メインティーチャー（MT）の顔の高さについて 生徒がMTをよく見るので、MTが立って指導すると生徒の顔が上がりすぎて、喉をしめてしまう。	実態に合うような配置、向きに変更した。 キーボードを台車付きの低い机に置き、MTも車輪付きの低い椅子に座った。
	指導内容・方法について 自立活動の身体の動きに留意した内容 上肢の動きを促す活動を、個別の楽器の練習場面でつくる。 ねらいに合った指導の方法を意識する。	個別の練習時間と順番に演奏する時間を分けた。 ねらいに留意した指導を心がける。
	について 生徒の状況によって、予定どおりの指導ができない場合を想定して、対応策や授業内容の変更を用意しておく。	可能な範囲で、配慮事項を入れたり、人数変更に応じた指導内容を準備した。

このような授業評価に基づく授業改善を通して、児童生徒の実態把握が進み、年間指導計画の改善に生かすことができました。

## 教材・教具の工夫 テレビ電話システムの活用

訪問教育においては、児童生徒の自宅と学校を、テレビ電話システムでつなぎ、朝の会や帰りの会など日常的な参加、行事に向けた事前学習及び行事への参加が可能になりました。このシステムの導入により、臨場感をもって双方向で学習の様子を伝え合えるというこれまでなかなか実現しにくかった新しい学習の形を実現することができました。

具体的には、家庭にしながら、朝の会に参加する、音楽の授業で合奏する、文化祭や卒業証書授与式といった行事に向けての練習に参加するなど、訪問教育の指導内容を拡充し、教育の充実につながりました。



図2 訪問学級児童が、教室の児童とテレビ電話を活用して朝の会に参加



図3 教室の児童が、自宅にいる訪問学級児童とテレビ電話を活用して朝の会に参加



図4 訪問学級生徒がテレビ電話を活用して、卒業証書授与式に出席

## 成果の普及・発表

研究成果の普及を図るため、肢体不自由教育の基礎知識に関する研修資料を作成しました。

「自立活動の手引き」(平成19年度):「姿勢」、「補助具」

「続自立活動の手引き」(平成20年度):「呼吸」、「摂食」、「感覚」、「支援機器」

ここでは「姿勢について」のページを示します。



掲載HP <http://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/suisinjiyou/19/suisinjiyou-19.html>

## 2 知的障害のある児童生徒に対する領域・教科を合わせた指導

広島県立廿日市特別支援学校

### 研究テーマについて

知的障害のある児童生徒に対して，各教科や領域の内容を合わせて指導する「領域・教科を合わせた指導」の効果的な指導の在り方を，授業研究等を通して追究することを目的としました。

知的障害のある児童生徒に対しては，抽象的な内容より，実際の・具体的な内容の指導が効果的です。具体的には，次のようなことに配慮することが重要です。

生活に結び付いた実際の具体的な活動を学習活動の中心にすえ，実際の状況下で指導する。

生活の課題に沿った多様な生活経験を通して，日々の生活の質が高まるように指導する。

できる限り成功経験を多くするとともに，自発的・自主的活動を大切にし，主体的活動を助長する。

知的障害のある児童生徒に対する配慮事項を踏まえると，「領域・教科を合わせた指導」が効果的です。

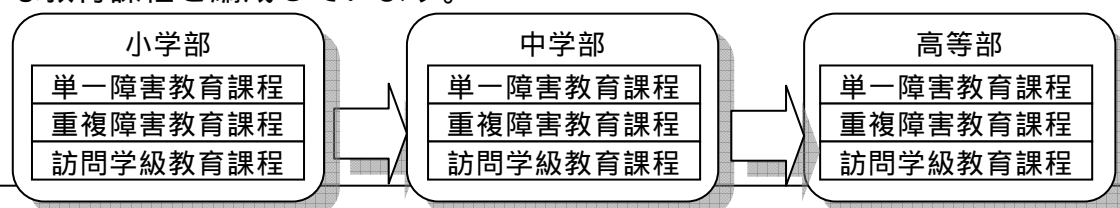
領域・教科を合わせた指導とは，学校教育法施行規則第130条の2の規定による，各教科等の全部又は一部を合わせた指導のことです。知的障害者を教育する特別支援学校等においては，「領域・教科を合わせた指導」として，日常生活の指導，遊びの指導，生活単元学習及び作業学習などがあります。

### 廿日市特別支援学校の概要

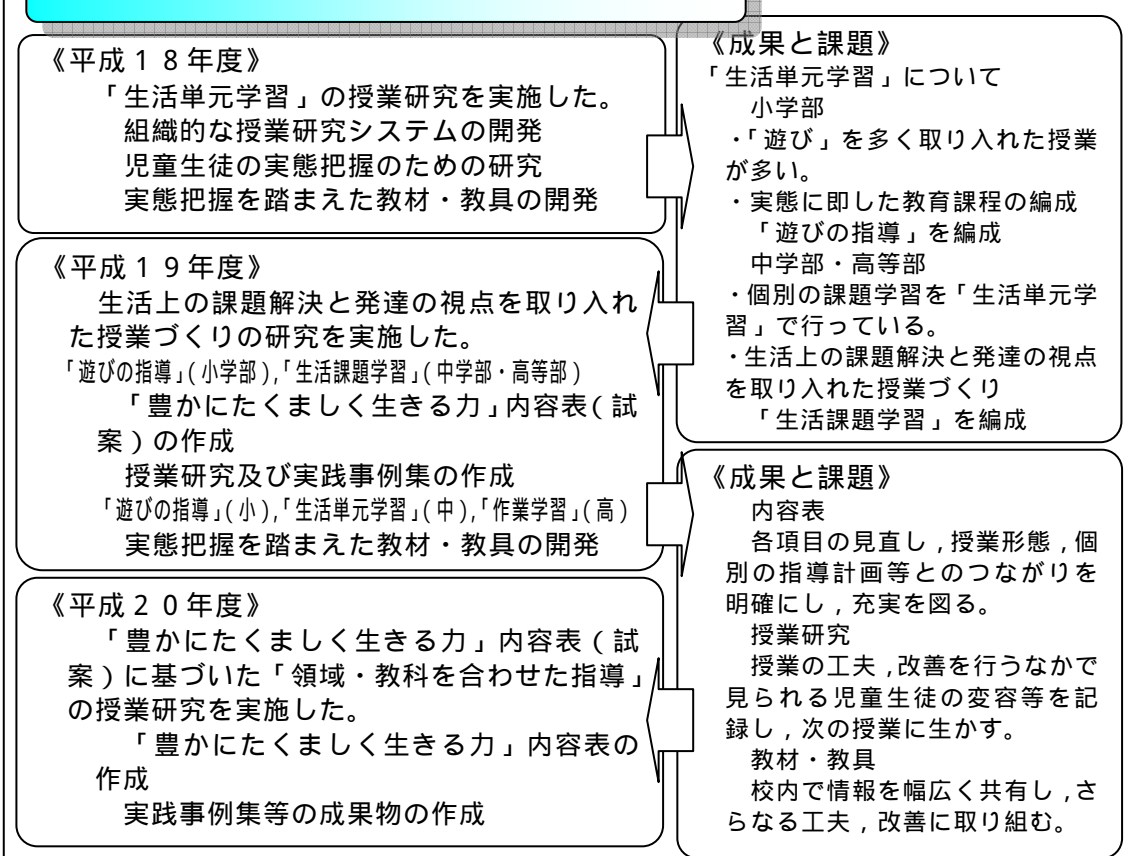
本校は広島県西部地域における知的障害のある児童生徒を教育の対象とする特別支援学校です。昭和49年に開校しました。就学区域は，広島市佐伯区，大竹市，廿日市市です。

小学部，中学部，高等部を設置しており，40学級152名の児童生徒が在籍しています（平成20年5月1日現在）。

児童生徒の実態としては，重複障害の児童生徒が51名在籍し，そのうち医療的ケアを必要とする児童生徒が9名，訪問教育を受けている児童生徒が8名在籍しています。学部間の系統性と発展性を踏まえて，次のような教育課程を編成しています。

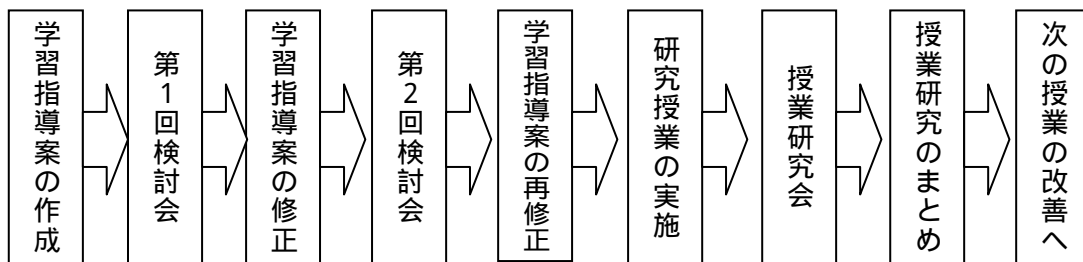


## 平成18年度から平成20年度の研究概要



## 組織的な授業研究システム

授業研究においては、事前の学習指導案検討会を重視しました。外部の指導助言者（大学教授等）から指導助言を得ながら、研究授業実施前に2回の学習指導案検討会を実施することで、改善点を明確にし、確実に学習指導案の改善を図り、研究授業を実施しました。



## 「豊かにたくましく生きる力」内容表の作成

児童生徒の「豊かにたくましく生きる力」を育むために、「健康」「基本的生活習慣・生活スキル」「人とのかかわり」「学び、興味・関心」「社会生活・集団生活」の5項目を設定し、それぞれの項目で児童生徒にどのような力を付けるのか、どの授業場面で指導するのかを明確にするために、「『豊かにたくましく生きる力』内容表」を作成しました。

領域・教科を合わせた指導の在り方 小学部「遊びの指導」

平成19年度から小学部の教育課程に「遊びの指導」を位置付けました。指導のねらいと指導内容の分類・整理を行い、繰り返しのある題材による指導内容によって年間指導計画を構成しました。

また、「授業づくりの改善点」について整理しました。特に、「遊びの指導」においては、「児童が主体的にしっかり遊べる」、「児童の活動量を確保する」ことを留意事項として改善を図りました。

小学部 3・4年1組 遊びの指導 学習指導案

1 日時・場所 平成 年 月 日 ( ) 小学部 3・4年 教室

2 題材名 「いっくんでんしゃ」 (略)

- 6 本時のねらい
- ・絵本をよく見て、物語を楽しむことができる。
  - ・自分から手を伸ばし、感触遊びを楽しむことができる。
  - ・児童運搬車での活動を楽しむことができる。
- (略)

9 学習過程

学習活動	学習内容と指導上の支援(・), 評価の観点( )
1 はじめのあいさつ	・当番と一緒にあいさつをする。

「授業づくりの改善点」  
題材の目標及び本時の目標に則して、個々の児童の様子やねらいを記述する。  
学習過程における児童の様子を評価し、次の展開へつなげる。  
指導の終わりに児童の振り返りを設ける。

領域・教科を合わせた指導の在り方 中学部「生活単元学習」

中学部の生活単元学習では、生徒が生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活につながる自己選択や自己決定をする力をはぐくむ必要があります。そこで、中学部3年間を見通した生活単元学習の単元構成について、次の観点から改善を図り、単元配列表を作成しました。

小学部から高等部までの系統性を踏まえつつ、中学部3年間の系統性を考慮する。  
季節単元に様々な題材を盛り込み過ぎないように、単元をタイプ別に整理する。  
学級(単一障害学級・重複障害学級)、学年、学部と指導形態によって整理する。

中学部 生活単元学習 単元配列表

ねらい	指導形態	第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動に見通しをもって主体的に取り組む。</li> <li>・共通の目標や課題に対して興味をもち協力して取り組む。</li> <li>・生活経験の拡大を図る。</li> </ul>	単一障害学級	季節単元・栽培、調理を中心とした単元 製作を中心とした単元		
	重複障害学級	季節単元・栽培、調理を中心とした単元 製作を中心とした単元 生活課題単元		
	学年	生活課題単元 行事単元		
	学部	生活課題単元 季節単元		

実際の表においては、生活単元学習の「ねらい」に則して、各「指導形態」別に、各「学年」ごとに、単元のタイプによって、単元名がいくつか示されている。



領域・教科を合わせた指導の在り方 高等部「作業学習」

高等部「作業学習」は、作業活動を学習活動の中心にすえ、生徒の働く意欲を培い、生活する力を高めることを意図しています。また、自らの進路を切り拓き、自己選択・自己決定できる力を付ける学習の場でもあります。そのために、次のような学部作業と学年作業を設定しています。

学部作業

「学部の縦割り集団で行う協同作業の学習の場」であり、生徒の実態に応じた作業内容を役割分担して、製品を生産する学習。

園芸 木工 食品加工 陶芸 手工芸

学年作業

就業体験実習等を通して、あるいは、同じ学年の生徒との協同作業を通して、将来の自分の生活について幅広く考える学習。

第1学年 → 第2学年 → 第3学年

高等部作業学習 学部作業「園芸」学習指導案

- 1 日時・場所 平成 年 月 日 ( ) 農園
- 2 単元名 「ジャガイモをつくろう」 (略)
- 6 本時のねらい
  - ・作業に集中して主体的に最後まで取り組むこと (略)
- 9 学習過程(要約)
  - ・堆肥を一輪車で畑まで運び、スコップ等を使用して、指定された場所で堆肥を撒く。

「授業づくりの改善点」  
生徒が達成感や満足感を得るための工夫や準備が重要である。

- ・人数分の道具を準備しておく。
- ・畑まで往復した回数を表すために洗濯ばさみを増やしていく。
- ・運搬経路に白線を引いておく。

領域・教科を合わせた指導の在り方 中学部・高等部「生活課題学習」

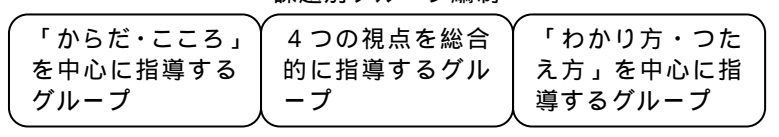
平成19年度から、中学部及び高等部の単一障害学級の教育課程に、新しい領域・教科を合わせた指導として「生活課題学習」を編成しました。「生活課題学習」では、生徒一人一人の生活や卒業後を見通した生活から見いだされた課題について、継続的に指導を行い、そこで習得した力を「生活単元学習」や「作業学習」で応用していきます。

実際の指導に当たっては、指導内容を次の4つの視点で設定し、各学部で3つの課題別グループを編成して指導を進めています。

4つの視点による具体的指導内容の設定

視点	からだ・こころ	せいかつ	ものとのつきあい方	わかり方・つたえ方
指導内容	ストレッチ ウォーキング ランニング等	身辺環境の美化 公共施設の利用 衣服の管理等	手芸 (ビーズ・刺し子) 調理	文字・計算 パソコン 買い物学習等

課題別グループ編成



年間を通して、同じグループ編成で指導を行う。

### 3 自閉症の児童生徒に対する指導

広島県立広島北特別支援学校

#### 研究テーマについて

知的障害特別支援学校に在籍する自閉症の児童生徒に対する効果的な指導方法や指導内容の在り方等を追究しました。

平成20年度は、サブテーマを「自閉症児童生徒の生活を広げる授業づくり」とし、キーワードを「つたわる」、「わかる」、「つながる」としました。研究仮説として、「つたわる」、「わかる」授業を積み重ねていくことで、学校の学習場面における取り組みが、家庭生活においても生かされていき、自閉症の児童生徒の生活の質の向上が図られるであろうと設定し、授業研究等を通して、実践研究を進めました。

#### 「自閉症」とは

3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」平成15年、p.44（一部修正）

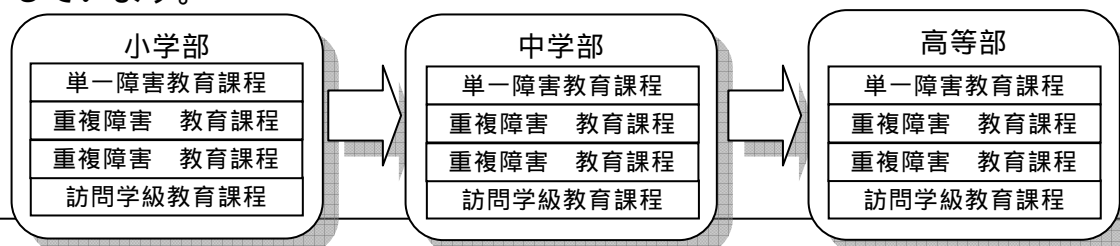
#### 広島北特別支援学校の概要

本校は広島市北部の広島市安佐北区にある知的障害のある児童生徒を教育の対象とする特別支援学校です。広島市安佐北区・安佐南区、安芸高田市、安芸太田町、北広島町を就学区域としています。



小学部58名、中学部49名、高等部97名、計204名（平成20年5月1日現在）の児童生徒が在籍しています。自閉症又は自閉的傾向のある児童生徒が、学校全体で約90名在籍しています。

知的障害のある児童生徒の実態を踏まえて、次のような教育課程を編成しています。



## 研究の方法

### 文献研究及びリーフレットの作成

自閉症のとらえ、問題行動、困り度、効果的な指導方法等についての文献研究を行う。研究の成果を基にリーフレットを作成する。

### アンケートの実施及び指導評価シート等の様式作成

教職員に対し、自閉症児童生徒の困り度をアンケート調査し、自閉症児童生徒の障害特性を考慮した指導評価シート等の様式を作成する。

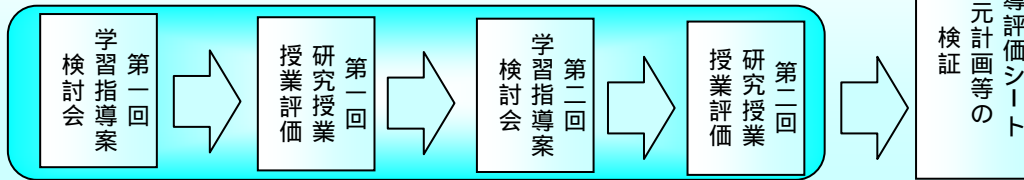
### アセスメントの実施

自立活動指導内容設定シートを用いて、児童生徒の中心的課題、指導・支援の中心的内容を明らかにし、学習指導案の作成に活用する。

### 授業研究の実施

次の観点で、学習指導案検討会及び研究授業・授業評価を実施する。同一学級の同一単元の始め（第1回）と終わり（第2回）の2回実施する。

- ・ 「つたわる」、「わかる」、「つながる」ための手だてがなされているか。
- ・ 「つながる」授業として組み立てられているか。



### 公開授業による研究成果の公開

における授業研究の対象とした学級とは異なる学級の授業研究を実施する。授業研究の観点は、同じとする。

## 研究成果 自閉症の児童生徒の障害特性に応じた指導

「つたわる」、「わかる」、「つながる」のキーワードに基づく指導を行うことで、自閉症の児童生徒の自立と社会参加へ向けた力が付きます。

### 「つたわる」

確実に伝わり合える方法を見つけて、それを常に使っていきましょう。

(例) 写真や絵カードを使って、視覚的に分かりやすく示す。スモールステップで、繰り返しの指導を行うようにする。



図1 落ち着いた口調で、必要な事柄だけを短い文で簡潔に示す。

### 「わかる」

児童生徒の発達や認知に応じた課題を設定し、活動内容や順序、量を分かりやすく示してから取り組ませ、評価していきましょう。

(例) 始めと終わりを明確にする。エプロンをつけて給食準備が分かるようにする。片付けはお盆を運んでおしまい分かるようにする。



図2 始めと終わりははっきりと示してから活動させる。

### 「つながる」

分かったことや出来るようになったことを、学校での活動全体に、そして、家庭や地域での生活にもつなげていきましょう。

(例) 人のおもてなしをする学習や買い物学習などを通じて、物との関わりから人を介した関わりを重視し、付けた力を使う場面を作るようにする。



図3 他の人や物が気にならないように個人的な空間を設ける。

自閉症の障害特性に応じた授業づくり

「つたわる」ための実態把握シート、「わかる」ための実態把握シートを用いて、自閉症の児童生徒個々のもつ強みや取り組むべき課題を把握し、その実態把握に基づき、「自立活動指導内容設定シート」を活用することによって、自立活動の指導内容を具体化しました。

次に、「指導評価シート」を作成・活用し、ケースの対象とする児童生徒の自立活動の指導内容と授業における手だての関連を明確にして、指導に対する評価を行えるようにしました。

「つたわる」ための実態把握シート

自閉症児童生徒のコミュニケーションの実態把握を行うために用いました。

「使用している手段」の項目としては、他に「表情」、「身振り・動作」、「サイン」、「音声言語」等があります。

「つたわる」ための実態把握シート

学部\_\_年\_\_組 氏名\_\_\_\_\_ 平成\_\_年\_\_月\_\_日現在  
 自閉症児童生徒とのコミュニケーションで使用している手段の中で、確実につたわるものに○、ほぼつたわるものに△、つたわることもあるが確実でないものに◇、つたわらないものに×をつける。

使用している手段	理解（受容）		表出（発信）	
	評価	備考	評価	備考
実物				
写真				
絵				
イラスト				

自立活動指導内容設定シート

本人、保護者、担任の困り度から、児童生徒の中心的課題を明らかにし、そこから自立活動の指導内容を設定できるシートを活用しました。

自立活動指導内容設定シート

学部\_\_年\_\_組 氏名\_\_\_\_\_ 平成\_\_年\_\_月\_\_日現在

児童生徒の発達の違い、生活のしにくさをアセスメントで見つける。

困り度から 担任
保護者
本人
フォーマルアセスメントから
検査から見えてきたこと

長期短期目標に照らし合わせて学校の中で取り組むべき中心課題をあげる。

長期・短期目標	
長期目標	
短期目標	
中心的課題	

自立活動の時間の指導で取り組む目標と指導内容、支援の方法を設定する。

指導内容を設定する視点

- ・個別で指導する必要がある内容であるか。
- ・その内容に取り組むことで、児童生徒の生活が改善されていくものか。
- ・他の教科や日常生活に般化される内容であるか。

目標を設定する視点 目標：般化させるべき姿を踏まえ、指導内容と照らし合わせたときの目指すべき姿

- ・評価が出来る具体的な目標であるか。
- ・支援があれば出来る目標ではなく、本人が分かって動く主体的な姿を目指しているか。
- ・発達課題を踏まえ、本人にとって少し難しい目標になっているか。

支援の方法を設定する視点

- ・本人が分かるための支援であるか。（環境設定）
- ・本人が考えるための支援であるか。（思考させるために）
- ・主体性を引き出す支援であるか。（般化を意識するために）

目標	指導内容	支援の方法

指導評価シート

授業における児童生徒の中心的課題と効果的な指導の在り方，基本的な対応及び授業に対する評価が共有できるシートを活用しました。

(記入例 Dくんを対象として指導の評価を行った場合)

**指導評価シート**  
 (小学)部( )年 教科・領域(生活単元学習「つくる1」)(前期)  
 単元名(おこのみやきをつくろう) 授業者( A ・ B ・ C )

本時の学習指導計画  
 5月16日金曜日 (3)校時(10:50~11:35)本単元 第(4)時 場所( )  
 学習集団編制

学年  
 ねらい  
 ・見通しをもって，最後まで取り組むことができる。  
 ・道具を適切に使い，安全に活動することができる。

前時より改善した点  
 ・活動により関心がもてるように，調理中に入れる材料を児童が選ぶ場面を

指導の流れ

集団	学習過程	指導上の留意点 一人一人への支援	評価	準備物
個別	1 班に分かれて座る。 2 はじめの挨拶をする。 3 本時の活動を知る。 4 お好み焼きを作る。 班毎に作る。 卵・水・粉を混ぜて溶く。 他の材料をナイフで切る。 全部を混ぜ合わせる。 ホットプレートで焼く。	・授業が始まることを意識できるように言葉かけをする。 ・イメージしやすいように写真等を提示しながら，お好み焼きを作ることを説明する。 ・作業の順番を決めてから各児童が取り組むようにする。 ・一人で最後まで作りきれないように，Dくんの材料を分けておき，手順表を見ながら，自分で作りきれないようにする。 ・握る方向が分かるように，ナイフの背に印をしておく。 ・一定の大きさで切れるように，支援員から切る。 ・中に入れる材料を，ちくわかチー好きな方を選ぶ場面を設定する。 ・児童の実態に応じて支援する。 ・怪我や火傷をしないように注意する。 ・次回への期待をもつことができ，がんばったことを評価する。	○ (よかった) ○ (工夫が必要) × (必要ない)で記入する。	写真カード 手順表 【材料】 お好み焼き粉 卵，水 キャベツ ネギ ちくわ …… 【道具】 ナイフ 支援具 ボール フォーク 皿 ……
学年	5 お好み焼きを食べる。 6 終わりの挨拶をし，片付けをする。	・自分で分かって，片付けができるように，各児童に作業を明示する。		

「『 』のために(できるだけ)『 』する。  
 目標と手だてを明記した書き方に統一する。

自立活動の指導と関連する手だては，網掛けで示す。

対象の児童にとって有効と考えられる支援をやり方で示す。

授業評価

項目	評価	次時へ向けての改善点
つたわるための支援は有効であったか。 ・写真や手順表を見る。		
わかるための指導は適切であったか。 ・手順表に従って，一人で作業を行う。		
自立活動とのつながりはあったか。 ・見通しをもち，本人が主体的に行動する。		

「めざす児童生徒の姿」を具体的に記入する。

## 4 特別支援学級における教育課程の編成

### 及び障害の状態等に応じた指導 大竹市立大竹小学校・庄原市立東城小学校

#### 研究テーマについて

##### 特別支援学級における教育課程の編成

特別支援学級は、障害のある児童生徒を対象とする学級であるため、対象となる児童生徒の障害の種類、程度等によっては、障害のない児童生徒に対する教育課程をそのまま適用することが必ずしも適切でない場合があります。

そのため、学校教育法施行規則第138条では、「特別の教育課程によることができる。」と規定しています。

##### 障害の状態等に応じた指導

障害のある児童生徒を指導するに当たっては、まず、児童生徒の障害の種類や程度を的確に把握する必要があります。

次に、個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容・指導方法の工夫を検討し、適切な指導を計画的、組織的に行わなければなりません。このため、指導に当たっては、例えば、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成し、実際の指導において、それらを活用することなどが考えられます。

#### 大竹市立大竹小学校の概要

広島県の西の玄関口と言われる大竹市にある小学校です。瀬戸内海に面した沿岸部には重化学工業地域、その北側に商店街、住宅地があります。

学級数は24学級、児童数は713名（平成20年5月1日現在）です。その内、特別支援学級は、知的障害特別支援学級（児童数3名）、情緒障害特別支援学級（児童数3名）、肢体不自由特別支援学級（児童数1名）の3学級があります。

#### 庄原市立東城小学校の概要

中国山地の真ん中に位置している庄原市にあり、南には帝釈峡、北には道後山があります。比婆道後帝釈国定公園の玄関口にある小学校です。

学級数は12学級、児童数は279名（平成20年5月1日現在）です。その内、特別支援学級は、知的障害特別支援学級（児童数8名）、情緒障害特別支援学級（児童数1名）の2学級があります。

## 研究の方法

### (1) 研究主題の設定

特別支援学級の教育課程の改善及び授業改善を図るとともに、全ての児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じてきめ細かく丁寧な指導や支援を行うという特別支援教育の考え方を活かして、通常の学級においても授業改善を図る研究主題を設定しました。

### (2) 研究体制の確立

特別支援教育に係る校内委員会を活用することで、実態把握を実施し、個々の児童の教育的ニーズの把握を行い、全ての学級における授業改善の視点を定めた上で、授業改善を図りました。また、改善の効果について検証を行い、組織的かつ計画的に研究を推進しました。

### (3) 実態把握の実施と個別の指導計画の活用

- ・ 実態把握の観点を定めた実態票の作成(大竹小)
- ・ 複数体制によるチェックリストの活用(東城小)

客観的な実態把握を実施し、それを個別の指導計画の作成に活かすとともに、個別の指導計画を授業改善において活用しました。

### (4) 授業改善の項目を設定

実態把握から、授業改善の項目を定めることで、特別支援学級を含む全ての学級で確実に授業改善を図ることができました。

- ・ 支援のポイント(大竹小)
- ・ 授業改善のキーワード(東城小)

## 客観的な実態把握について

### 実態票の作成(大竹小学校)

実態票作成のために、実態把握の観点を定めることで、内容に一貫性を持たせました。また、特別支援学級が複数設置されていることを活かして、作成した実態票について特別支援学級担任で協議し、客観性の確保と指導者間における共有化を図り、個別の指導計画の作成に活かしました。

### チェックリストの活用(東城小学校)

次のように2種類のチェックリストを2段階にわたって活用し、個々の児童の実態把握を行うとともに、「課題のある児童」における全体的な傾向を把握して、授業改善の視点の策定に反映させました。

チェックリスト  
(守谷市立松前小学校作成)  
全校児童対象

チェックリスト  
(文部科学省作成)  
課題のある児童対象

個別の指導計画の作成  
全体的な傾向把握  
授業改善

複数の教師による把握

## 授業改善の項目について

客観的な実態把握に基づき、次のように授業改善の項目を定めました。項目を定めることで、改善点が明確になり、確実に授業改善を図ることができました。また、授業改善の項目による工夫や改善例を示します。

特別支援教育の考え方に基づいた授業改善の項目		
項目	実践例	児童に期待される効果
見通し	学習の流れを提示し、それに基づいて授業を行う 個々の児童のめあてを提示する	主体的に動けるようになる。
視覚的支援	計算棒、「10のケース」等の活用 ペープサートの活用 電子黒板の活用 絵や写真の活用 構造的な板書 例 チョークの色の統一	分かりやすい。
聴覚的支援	計算の手順を繰り返し唱える 音読 替え歌 リズムとテンポと繰り返しを生かす 不必要な音を取り除く	聴覚的な情報により理解が一層深まる。 聞く環境が整う。
学習環境の整備	学習規律 机の上の整理整頓 机の中の整理整頓	学習に集中できる。
「言語技術」の活用	話型の提示 絵の分析 根拠の明確化 主語と文末 ナンバリングの活用 情報の分析 視点を変える	表現しやすい。 相手に伝わる。 思考力の育成に有効である。
学習意欲の喚起	個に応じたワークシートの作成 興味・関心をひく教材・教具の工夫 個々のめあてに基づいた自己評価	意欲的に学習できる。
学習集団づくり	ペア学習 グループ学習 つながり発言 考えの交流 ソーシャルスキルタイム	学びの質が高まる。

(東城小学校の作成した表を基に大竹小学校の手だてを加えた。以下の事例も同様)

### 見通し

先が見通せるので、児童が安心して学習に集中できる。  
自主的に学習しようとする態度を育てることができる。

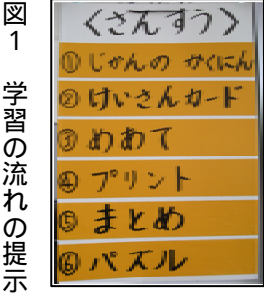


図1 学習の流れの提示



図2 個々の児童のめあてを提示



## 視覚的支援

見ることで理解ができる。



図3 「10のケース」  
10のかたまりを意識する



図4 「手順カード」  
制作の手順を写  
真カードで示す



図5 ペープサート  
を活用して、物  
語の理解を図る

## 言語技術の活用

「言語技術」を用いて説明することで、相手に伝わりやすい有効な支援となる。

図6 指導者が「言語技術」を用いて説明する



大切なことを三つ話します。  
一つめは・・・  
二つめは・・・



図7 児童が「言語技術」を用いて説明する

まず最初に・・・  
次に・・・

## 学習意欲の喚起

個々のめあてに基づいた自己評価を行うことで、達成感をもつことができ、次の学習の意欲となる。

図8 話型モデルを示すことによる自己評価



図9 シンボルを用いて、自己評価をする

## 学習指導案の改善

生活単元学習「秋を楽しもう」の学習指導案から（東城小学校）  
学習指導案に授業改善のキーワードを記入し、改善が確実に行われるようにした。

生活単元学習 学習指導案			
1 日時	平成20年 月	日( )	5校時
2 学年	第 学年	学級(情緒障害特別支援学級)	1名
3 単元名	秋を楽しもう		
... (中略) ...			
8 学習過程			
学習活動	指導上の留意事項	支援	評価基準
1 時間の確認をする	終了時刻を確認する。	見通し 視覚的支援	
2 本時の学習の流れを知る。	本時の流れをカードで示す。		
3 本時のめあてを確認する。	・めあてを読む。		
4 「秋を楽しむ会」を開く。	・「会」を成功させるポイントを確認する。 ・参加者にも「秋の歌」を歌ってもらう。 写真入り台本を手元において進行させる。		

